

真理を求め努力を惜しまぬ生徒 互いを認め合う思いやりのある生徒 心身ともに健康で責任を果たす生徒



浜頓別町立浜頓別中学校
学校だより 第4号
R7年 6月30日発行
文責・編集・発行：教頭

教室から飛び出した

【1年生 SUP体験】

とても暑かった日。湖の上は少し涼しそうでした。



【2年生 宿泊学習】

2日間を通して、興味・関心の幅が広がったように見えました。



【3年生 町おこしプロジェクト】

4つの班に分かれて、昨年度の提言を実現するために活動しました。



3年生によるお見送り！

【キャリア教育講演会】

6月23日には、浜頓別高校を会場とした「浜頓別町キャリア教育講演会」が開催され、講師に文部科学副大臣を務めている武部新氏をお迎えしました。

講演では、国会議員を含めた「政治家」の仕事内容や、政治家を志した理由、文部科学副大臣として行っていること、それぞれの地域にとっての学校の役割などについてお話しされました。

また、質疑応答の場面では、本校1年生の工藤さんと瀬川さんがそれぞれ質問しました。回答の中で、武部氏は「世界の中で日本は**信頼**されている」ことや、「失敗を恐れずに**挑戦**することが成功のカギ」であることをお話しされました。



【小中交流（先生方の）】



6月24日には、浜頓別小学校を会場に、小中の先生方同士の交流会が行われました。5年1組の算数の授業を参観し、その後、グループに分かれて参観した授業や、子どもたちの「**聞く力**」や「**話す力**」の育成、**語彙**を豊かにする取組などについて話し合いました。予定していた時間をオーバーするくらい熱心な話し合いが行われ、小中の連携を一層強化するきっかけとなりました。



さらに浜頓別高校とも連携を深め、効果的な取組が行われるよう、教育活動等を進めて参ります。

『教科の学び × 体験 × 考える』

校長 明石 貴宣

「マチの全てが学びのフィールド」という合い言葉の下、地学協働の取組をはじめ、地域や関係各所のご協力のおかげで、教室や学校を飛び出して体験的な学習活動が展開できています。多くの皆様の支えに、あらためて心から感謝申し上げます。

学習指導要領には「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有し」とあります。今の学校と地域の取組が、この町やこの国の未来を創っているのだという思いを、これからも共有していけたらと思います。

ではなぜ、地域で学ぶことや体験的な学習が重視されているのか。

子どもたちは毎日学校で数学や社会などの教科を学んでいます。ただ、教室での学びだけでは、教科を学ぶことの意義が見だしにくくなります。リアルな現象やできごとや体験と結びついたとき、そして、なぜ？と考えたとき、学ぶことの意義が見えてきます。

SUPでクッチャ口湖に落ちます。すると、湖水がしょっぱい（浜頓別の方にとっては当たり前なのかもしれませんが、私は知りませんでした）。なんでしょっぱいんだ、湖なのに。なんか理由があるはずだ。そうか、クッチャ口湖は5500万年前までは海だったんだ。海跡湖っていうんだって。今も海水が流れ込む汽水湖なんだ。他に汽水湖って？サロマ湖とか宍道湖とか。宍道湖ってどこだ？島根県だよ。島根県ってどのへん？

知識と体験を結びつけて考えることによって、それが生きる力になっていきます。

私たちは学校で学んだことを、結構使って生きています。毎日の天気、料理や掃除には理科の知識を、国語や社会はもちろんですが、意外と数学的な考え方は実社会で大事です。

今の子どもたちが大人になったとき、どんな社会になっているかは予測しにくくなっています。職業だって、今はまだ存在していない職業に就いているかもしれません。しかし、知識と体験を結びつけて考える力は、どんな状況でも必ず役立ちます。だからこそ、地域で学ぶことや体験的な学習を重視しているのです。浜頓別は、そんな学びの教材があふれる町です。ここで学んだ子どもたちが、町や国の未来を創っていってくれと信じています。